

# 荷電粒子管理運営委員会

## 1993年度 第1回 議事録

日時 : 1993年4月9日(金) 午後6時～8時  
場所 : 北海道大学情報処理教育センター3階会議室  
出席者 : 加藤、岡部、片山、千葉、吉田、向井  
大西(オブザーバー)

### I. 報告

- 向井 : 1992年度データ20編のマージ済み、残り40編を作業中である。
- 吉田 : 1992年度の報告書が出来あがった。600部作成した。
- 千葉 : F.E.Chukreev(CAJaD)がロシア語のEXFORデータチェックシステムのパソコンバージョンを作成したので、英語版または日本語版のバージョンに移植したいので、ワークショップを日本で開催してほしい、という要請があった。

### II. 討論

- [1] ワークショップの開催について  
本年度は、行わないことになった。
- [2] 本年度の作業予定  
データ収集リストを作成することとなった。  
青木、小池(貴)、平林氏にコーディング作業を依頼する。
- [3] 年次報告書について  
報告書にデータの送付先と送付データの形式を添付する。  
報告書の最後に発行者を明記する。  
ボリューム番号をつける。
- [4] 著者に対するアナウンス  
本年度の入力データ件数を著者に伝えることとする。
- [5] 運営委員会メンバーの変更  
次回から、大西氏(北大理)を荷電粒子管理運営委員会の正式メンバーとする。

III. 次回は1993年5月21日(金) 午後6時～

# 荷電粒子管理運営委員会

## 1993年度 第2回 議事録

日時 : 1993年5月21日(金) 7時15分～8時50分  
場所 : 北海道大学情報処理教育センター2階教育用学術情報室  
出席者 : 長田、加藤、大西、岡部、能登、片山、千葉、吉田、向井

### I. 報告

- 吉田 : データ送付の依頼を付けて、1992年度報告書を発送した。報告書の配布先に、北大工学部の原子工学科と応用物理学科、および国会図書館を付け加えた。  
原研の鹿園氏より助言委員を辞任したいという連絡があった。藤田氏(RCNP)から9編データが送られてきた、その内3編を本年度収集する予定である。
- 千葉 : F.E.Chukreev(CAJaD) 氏に現在ワークショップを開催する予定はない、という旨の返事を伝えた。
- 向井 : 1992年度データ50の編マージが済み、残り13編を作業中である。
- 加藤 : 文部省に今年度の報告書を持って行き、北大での利用回数は150回である旨を報告した。学術情報センターへの登録については、インデックスデータベースの登録を検討中である旨の報告をした。

### II. 討論

- [1] 1992年度決算、1993年度予算  
加藤より前年度決算と本年度予算(案)について説明があり、承認した。
- [2] 助言委員の変更  
鹿園氏の助言委員辞任を承認した。
- [3] 今後の予定  
著者チェックシステムの作成を進める。(片山)  
コーディング用辞書索引の第1版を作成する。(能登)

III. 次回は1993年6月25日(金)午後6時30分～

## 荷電粒子管理運営委員会

### 1993年度 第3回 議事録

日時 : 1993年6月25日(金) 午後6時30分～9時30分  
場所 : 北海道大学情報処理教育センター2階教育用学術情報室  
出席者 : 加藤、大西、岡部、能登、片山、千葉、吉田、向井

#### I. 報告

- 大西 : 7月2日、シグマ研究委員会にシグマ研究委員会委員である加藤の代理で出席する予定である。
- 加藤 : 今年度の核データ研究会が11月18日～19日原研で開催される。今年度のプログレスレポートの原稿依頼が原研の核データセンターからきている、締切りは8月6日である。  
北大大型計算機センターで、他大学に接続出来る課題番号を取るための方式を検討してもらっている。
- 吉田 : NRDF、EXFORに使用登録されているINST一覧と実際に使用されているコードが異なっている例と、未登録INST一覧を提示した。
- 千葉 : IAEA主催のNRDCミーティングは、10月18日～22日パリで開催予定である。
- 向井 : 1992年度データ7編が未登録であり、63編のマージが済んでいる。

#### II. 討論

- [1] シグマ委員会への報告書  
報告書の著者は荷電粒子データファイル管理運営委員会とする。  
加藤より原案が提出され、承認された。大西が出席する。
- [2] 原研の核データ研究会  
出席する旨の回答をする。
- [3] 原研のプログレスレポート  
原稿を提出する方向で検討し、加藤が回答する。
- [4] 登録エラーの処理  
向井より1992年度登録作業中に発生しているエラーの例が提示された。
- [5] 大学、研究所コードのリスト  
未登録分については能登に一任する。すでに登録されているものの再登録の日程については、加藤と吉田で相談する。

III. 次回は1993年7月23日(金) 午後6時～

# 荷電粒子管理運営委員会

## 1993年度 第4回 議事録

日時 : 1993年7月23日(金) 午後6時～7時30分  
場所 : 北海道大学情報処理教育センター2階教育用学術情報室  
出席者 : 加藤、大西、岡部、片山、吉田、向井

### I. 報告

- 大西 : シグマ研究委員会に加藤の代理で出席した。  
吉田 : 本年度コーディング作業を東北大の青木、北大の奈良、小池(貴)、および、東洋大の手塚の各氏に依頼することになった。  
理研、KEKのデータを採ることが可能なフォーマットを考案したい。

### II. 討論

#### [1] 長田氏を助言委員とすること

長田氏が弘前大学に転出し運営委員会に出席できなくなった今後、助言委員として協力していただくよう要請することとなった。

III. 次回は1993年9月10日(金) 午後6時30分～

# 荷電粒子管理運営委員会

## 93年度 第5回 議事録

日時 : 1993年9月10日(金) 6時30分～  
場所 : 北海道大学情報処理教育センター教育用学術情報室  
出席者 : 加藤、岡部、片山、大西、吉田

### I. 報告

- 大西 : ワークステーションについて  
以下のワークステーションを原子核理論研究室に設置した。  
・NWS 5000 (SONY)  
・仕様  
32MB (メモリー)  
1.4GB (ハードディスク)  
120MIPS
- 吉田 : 北大大型計算機センターのNRDF使用ファイルについて  
NRDFの全容量を調べたところ700MB近くになっていた。  
この容量は、北大大型計算機センターに使用申請している  
数値を大幅に上回っている。

### II. 討論

- 大西 : ワークステーションの利用について  
インターネット接続を行い、さしあたり、コーディング者との  
データ交換に便宜を計る。どのような利用形態をとり、利用環境  
を用意するかについては、これから検討する。
- 吉田 : 北大大型計算センターのNRDFファイルの整理について  
次のような作業を進めてく。  
①NRDFとして必要なファイルの容量をはっきりとしていったう  
えで必要ならば大型センター申請の数値の変更をする。  
②ワークステーションへの取り込みを考える時の資料とする。  
③どのファイルがどんな内容なのかをファイル作成者以外の利用者  
もわかるようにする。

### III. 次回の委員会は、10月15日(金)午後6時30分から

# 荷電粒子管理運営委員会

## 93年度 第6回 議事録

日時 : 1993年10月15日(金) 6時30分～  
場所 : 北海道大学情報処理教育センター教育用学術情報室  
出席者 : 岡部、千葉、能登、大西、吉田

### I. 報告

吉田 : 報告書の国際標準逐次刊行物登録番号(ISSN)が決まった。  
NRDF92年報告書を国会図書館に送ったところ、登録  
番号(ISSN 0919-8695)の連絡があった。  
この番号を93年度報告書より印刷する。

千葉 : インデックスデータベースを作成した。

### II. 討論

1. 原研での核データ研究会出席について  
1993年核データ研究会(11月18、19日)に出席  
する方向で加藤と大西とで協議する。
2. NRDF研究会の開催について  
開催する方向で考える。北海道原子核理論グループの冬の学校  
前後にKEKや理研とのコーディングフォーマット作成のための打  
ち合わせを行うこととする。
3. コーディング用辞書について  
コーディング者より「従来のコーディングシートに項目値の入  
った辞書」がほしいとの希望があった。とりあえず辞書全体が  
14のCLASS別になっているものをコーディング者にわたすことと  
する。
4. 93年度報告書について  
運営委員会以外の方に原稿を依頼するものについて、編集委員  
会の責任で早急に具体化する。それ以外については次回の運営委  
員会で検討する。
5. NRDFデータの利用の拡大について  
以下の点について意見の交換を行った。検索方法を考えていく。  
① 下の検索システムを補うような別の検索方法を考える。よう  
② いろいろな末端NRDFデータの利用の拡大ができるよう  
にしていく。
6. ワークステーションについて  
USERID登録は、NRDFの作業関係者および運営委員  
会、助言委員会、2GBのハードディスクの購入を検討す  
る。また、来年度、2GBのハードディスクの購入を検討す  
る。

III. 次回の委員会は、11月26日(金)午後6時30分から

# 荷電粒子管理運営委員会

## 1993年度 第7回 議事録

日時 : 1993年11月26日(金) 午後6時30分～8時30分  
場所 : 北海道大学情報処理教育センター2階教育用学術情報室  
出席者 : 加藤、大西、岡部、片山、千葉、能登、吉田、向井

### I. 報告

- 片山 : 4月1日から1年間サバティカルで海外出張の予定である。訪問先としてオーストリアを予定している。
- 加藤 : 11月18日、原研での研究会のポスターセッションでインデックスデータベースについて報告した。
- 能登 : コーディング者用に、クラス別辞書を一部配布した。索引別辞書を作成中である。

### II. 討論

#### [1] 1993年度年次報告書

菊池氏、赤石氏に巻頭言を執筆依頼する。

田中一氏にニューラルネットワークについて執筆依頼する。

以下の項目について掲載することになった。

- ・インデックスデータの利用の仕方。
- ・WS(ワークステーション)システムの利用について。
- ・核データの evaluation について。

#### [2] 学術情報センターへの移植

インデックスデータを移植する。

#### [3] コーディング者の集まり

1月中旬に開催する方向で検討する。

III. 次回は1993年12月22日(水) 午後6時30分～

# 何電粒子管理運営委員会

## 1993年度 第8回 議事録

日時 : 1993年12月22日(水) 午後6時～8時  
場所 : 北海道大学情報処理教育センター2階教育用学術情報室  
出席者 : 加藤、大西、岡部、千葉、能登、吉田、向井

### I. 報告

- 千葉 : 科研費の申請書を提出した。  
加藤 : 原研の小冊子「核データニュース」にNRDFグループ紹介を書いて欲しいという依頼があった。  
吉田 : 名古屋核融合研究所の鎌田氏からデータの索引を送って欲しいという依頼があり、送付した。グラフ入力、コーディング作業は、本年度目標の3分の1終了した。

### II. 討論

#### [1] 拡大管理運営委員会の開催について

日時 : 1994年1月7日、午前10時から  
場所 : 北大理学部物理原子核理論研究室  
出席予定者 : 本管理運営委員会メンバー、および、奈良、小池(貴)、青木、手塚の各氏。  
副題 : コーディング作業の進展のために  
議題 :

- ・従来のコーディングシートで収集できないデータ(二次ビーム反応、中間エネルギー分野のデータ)を収集するための問題点。
- ・辞書索引の評価、新コード作成の原則および問題点。

#### [2] 年次報告書について

項目は以下の通り

- ・インデックスデータベース(千葉)
- ・WSシステムの利用(大西)
- ・核データの evaluation(原研に問い合わせる)
- ・入力データ一覧(加藤、吉田)
- ・一年間の活動内容(加藤)
- ・運営委員会議事録(岡部、向井)
- ・拡大運営委員会議事録(能登)
- ・核データ研究会報告書(加藤、千葉)

原稿の締め切りは1994年2月10日である。

III. 次回は1994年1月21日(金) 午後6時～

# 荷電粒子管理運営委員会

## 1993年度 第9回 議事録

日時 : 1994年1月21日(金) 午後6時40分～8時  
場所 : 北海道大学情報処理教育センター2階教育用学術情報室  
出席者 : 加藤、大西、岡部、千葉、能登、向井

### I. 報告

- 加藤 : 原研の小冊子「核データニュース」に原稿を提出した。  
北大大型計算機センターに、本年度の利用報告書を提出する  
予定である。
- 能登 : 1月7日午前10時より、拡大管理運営委員会を開催した。  
テーマは「コーディング作業の今後の進展のために」であった。
- 千葉 : IAEA会議は、4月パリで開催の予定である。

### II. 討論

- [1] 年次報告書について  
原稿執筆の担当者を確認した。
- [2] 北大大型計算機センター大島氏の協力依頼について  
北大大型計算機センターの技官大島雅明氏に「核データ  
ベース」作成に協力依頼をしたところ、前向きの回答があった。  
さしあたりオブザーバーとしての参加を要請することとなった。
- [3] 来年度の助言委員について  
3月中に、助言委員の依頼と確認を行う。原子核談話会へ助言  
委員の推薦の依頼を検討する。
- [4] パソコンの購入について  
直接パソコンより入力するコーディング協力者の作業環境改善  
のため、パソコンを購入する。

III. 次回は1994年2月17日(木) 午後6時～

# 荷電粒子管理運営委員会 1993年度 第10回 議事録

日時 : 1994年2月17日(木) 午後6時～8時  
場所 : 北海道大学情報処理教育センター2階教育用学術情報室  
出席者 : 加藤、大西、千葉、能登、片山、吉田、向井

## I. 報告

- 千葉 : ・インデックスデータベースの利用者の手引きとメンテナンスの手引きを作成中。  
・IAEA核データセンター会議は、パリで4月25日から27日まで開催の予定、本運営委員会からは、片山、千葉が出席する。
- 吉田 : 今年度の作業進行状況は、コーディング依頼中のものが70編である。
- 片山 : 今年4月から1年間グラーツへ行く。
- 大西 : 原稿依頼について、原研の丸山氏から「前向きに検討する」という回答があった。
- 加藤 : ・原研の菊池氏が3月14日に核データ収集の仕方やデータベース利用の方法について視察に来る予定である。  
・原研でも荷電粒子核反応データを独自に収集することを検討中である旨連絡があった。

## II. 討論

- [1] 年次報告書について  
原稿の最終締切りは2月28日となった。
- [2] データ収集について  
本年度3MBに達する為に、以下の項目について努力することとなった。  
・原研、理研、KEKのデータを早急に集める体制を作る。  
・調べる雑誌の範囲を広げる(Phys.Rev.D, Nucl.Phys.B) 但し、核反応以外の分野のデータは取らない。
- [3] 原研菊池氏の来札について  
3月14日午前10時より、データ収集作業プロセスを説明し、NRDFデータ検索を実演することとして、そのスケジュールを取り決めた。このミーティングを拡大管理運営委員会とし菊池氏より原研でのデータベース活動についても何うことにした。

III. 次回は1994年4月15日(金) 午後6時～